水戸教育事務所だより

第1号

～ 水戸管内で教育に携わるすべての皆様へ ～

2026年4月15日

所長あいさつ　「やる気と情熱の一年に」

水戸教育事務所長　太田　雅彦

教育庁学校教育部義務教育課からまいりました太田雅彦と申します。

水戸教育事務所は、令和８年度も市町村教育委員会としっかりと連携を図りながら、学校を支えてまいりますので、一年間、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私の思いをお伝えできるせっかくの機会をいただきましたので、お互いにやる気と情熱をもった一年になるよう思いを込めて書かせていただきます。

日々の忙しさに追われがちな学校現場では、教職員が本来、もっている情熱が見えにくくなることがあります。授業準備、行事、保護者対応、会議……。気付けば、子どもと向き合う喜びを感じる余裕がなくなることもあるかもしれません。しかし、先生方が最初にこの道を選んだ理由は、きっと別のところにあったはずです。子どもの成長に寄り添い、未来を拓く力になりたいという思い。その原点を思い出すことが、情熱を取り戻す第一歩だと考えます。

これは、ある生徒と先生のエピソードです。彼は中学時代、学習にも生活にも自信がもてず、教室の隅でうつむいていることが多い生徒でした。しかし、ある先生が毎日のように声をかけ続けました。「昨日より少しできたね。」「その考え方、いいね。」その言葉が積み重なり、彼は次第に表情を変えていきました。卒業の日、彼はその先生にこう伝えたそうです。「先生が信じてくれたから、僕も自分を信じられるようになりました。」その一言は、先生にとって何よりの励ましとなりました。

教育の成果は、すぐに数字で表れるものばかりではありません。むしろ、子どもの小さな変化に気付き、それを言葉にして伝えることこそ、教師の大切な役割です。昨日より一行多く書けた。苦手な子が手を挙げた。友達に優しくできた。そうした小さな成長を見付ける視点をもつことで、先生自身も「自分の働きかけが確かに子どもに響いている。」と実感することができるのではないでしょうか。

また、情熱をもち続けるためには、先生自身が学び続ける姿勢をもつことも欠かせません。新しい授業スタイルに挑戦する。他校の実践を参観しに行く。ICT・生成AIを積極的に活用してみる。最初から完璧である必要はありません。挑戦する姿そのものが、子どもにとって最高の学びのモデルになるはずです。

そして、教育は一人で背負うものではありません。学年や教科を越えて支え合い、うまくいったこともいかなかったことも共有できる「チームとしての学校」があるとき、先生の情熱は自然と持続していきます。互いの実践を認め合い、困ったときには助け合う。そんな文化が学校に根づくことで、子どもたちにとっても安心して学べる環境が生まれます。

先生方の毎日の一歩は、確かに子どもの未来につながっています。どんなに小さな関わりでも、子どもは必ずその子なりに感じ取ってくれています。どうかその価値を忘れないでください。先生方の情熱は、今日も子どもたちの心に灯をともしています。